

小笠原市長が新会長に

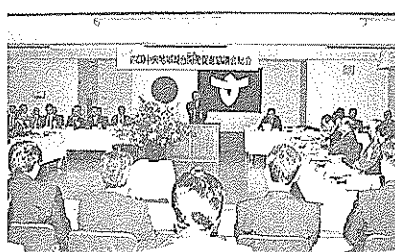
四国中央地域総合開発促進協議会

南国市で開催される

第三十五回四国中央地域総合開発促進協議会総会が、十月十九日に市役所大会議室で、南国市をはじめ四県から五市二十七町村の首長、議長ら約八十人が出席して開かれました。

この会は、四国中央部の市町村が県境を越えて、四国中央地域の総合開発計画を推進し、産業の振興を図って文化的経済的發展に資することを目的としたものです。

総会では加藤会長（観音寺市長）や小笠原市長のあいさつの後、既決議題四十三項目を再確認したうえで、本四連絡橋促進、四国高速自動車道早期完成、四国中央地域



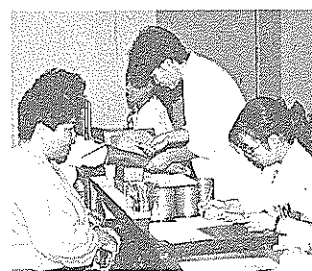
あいさつする小笠原市長

自分の体は 自分で管理

記念検診に250人

三十歳、四十歳記念総合健康診査が十一月十六日、市役所で開かれ、二百五十人が受診しました。男性の四十歳と女性の三十歳は肉体のひとつの節目と言われ、いろいろな病気が忍び寄ってくる時期です。

そこで、初診を受けることによつて検診に対する理解を深め、自分の健康管理に役立ててもらおうと、市では健康作り婦人会などの協力を得て毎年この記念検診を実施しています。今年も胃がん検診、成人病検診、歯科検診など六種の検診が行われました。



▲健康をチェック



▼盛況の健康づくり展

第八回演芸大会に

五十組が熱演

岩沼市からも特別参加

恒例の南国市演芸大会が、十月九日に市民体育館で開かれ、約五十組が熱演を繰り広げ、会場を埋めた一千五百人余りの観客の盛んな拍手を浴びていました。また、今年も姉妹都市岩沼市からも二十一人が参加し、美しい琴の音で観客を魅了しました。

演芸大会は、福祉のまちづくりの一環として郷土芸能を通して市民の憩い並びに交流を深め、収益金を福祉の増進に役立てようと毎年開かれているもので、今年で八回目。



両市の邦楽愛好者による共演



日章地区の皆さんによる「三朝小唄」

各賞の受賞者は次のとおりです。優秀賞■踊り「無法松の一生・どきよう千両」（坂本繁子・野田）■熱演賞■踊り「漁火恋唄」（浜田順恵ほか三人・前巻）■アイデア賞■踊り「おてもやん」（光明院千佳子ほか三人・岡豊）■ユーモア賞■踊り「洒落男」（伊尾木和子ほか一人・長岡東部）■特別賞■踊り「パトンとダンス」（坂本智世ほか二十三人・瓶岩

僧房跡と見られる 掘立柱建物跡を発見

土佐国分寺跡発掘調査

六十二年度に引き続き、国分寺跡の発掘調査が九月七日から十月二十日まで行われ、僧房跡と考えられる建物跡などが発見されました。

この調査は国分寺跡の範囲と内容を明らかにして今後の保存方法などを検討する基礎資料を得るために市教育委員会が県教育委員会の協力で実施したものです。

史跡土佐国分寺跡は、創建当時のものと推測される土塁が残っており、大正十一年に国の史跡に指定されています。土塁以外の遺構については明らかになっていません。



寺の北西部の遺構

昨年度の調査では、現在の鐘樓の西側から三間×五間以上の奈良時代のものと見られる礎石建物跡を検出、注目されました。今回は昨年検出された建物跡の規模や性格を明らかにするとともに、寺の北側の土塁の築地の有無や僧房等の遺構を確認するために、鐘樓の西側や寺の北側の三方所、約六〇〇平方メートルが調査されました。その結果、寺の北西部で二間×六間以上の東西棟の掘立柱建物跡を検出。これは、方向が正確で礎石を持たないこと、さらにその位置から、国分寺の僧が生活していた僧房であると考えられます。また、その西側に北限と考えられていた境界を突っ切って南北に延びる回廊状の遺構を検出。これが国



遺物を手に取って

分寺跡の遺構であれば、寺の北限は現在考えられているよりも北に延びる可能性があります。

一方、前回検出された建物跡は三間×六間の東西棟の建物であることを確認。その構造から中門であるとは考えにくく、倉庫ではないかと見られています。

そのほか、寺の北西部から掘立柱建物跡、溝、堀、土壇が、また鐘樓の西側から弥生時代の竪穴住居跡などが見つかりました。遺物は土師質土器や瓦、青磁など約一千点。当時官公庁などで使用された緑釉陶器も出土しました。県教育委員会では今後も調査を続け、国分寺跡の全容を明らかにしていきたい意向です。

十月十五日には説明会が開かれ、約五十人が訪れて遺物を実際に手に取ってみるなど、郷土の歴史に対する興味を深めていました。

実りの秋を実感

白木谷小で 全校児童が稲刈り

子供たちの体験学習と米の消費拡大をかねて白木谷小学校（吉森俊策校長）の全児童四十四人が、十月七日手にかまを持ち、稲の刈り取りに汗を流しました。

この日刈り取った稲は、六月十一日自分たちの手で苗を植え、たいせつに育ててきたもの。この四



元気に稲刈り



おいしそうだね

カ月でたわに実った稲穂に子供たちはうれしさをこらえきれず、稲を刈るときは注意もそこそこに出んばいっばいに散らばりました。子供たちのために水田を提供し、一緒に稲を育ててきた同校PTA会長の中司邦夫さんらの見守るなか、元気に刈り取りを始めた子供たち。最初はかまの使い方もきこなく四苦八苦していたものですが、慣れ、約七時の田んぼも一時間足らずで刈り上げました。束ねられた稲は早速、中司さんらとぞの場で脱穀。約二百四十キロを収穫しました。

収穫した米のうち約十キロは、十月二十二日全児童の手でおにぎりにし、校庭で食事。自分たちの作ったお米をじゅうぶんに味わいました。

残りの米はもち米に換え、来年二月完成予定の屋内運動場の落成式で祝いもちにする予定です。